

止まり木



ふてほど 2024新語・流行語大賞

2024年の「新語・流行語大賞」が2日発表され、年間大賞には、昭和から令和の時代にタイムスリップした主人公が価値観の違いに戸惑いながらも奮闘する姿をコミカルに描いた民放のテレビドラマ「不適切にもほどがある！」を略した「**ふてほど**」が選ばれました。

「新語・流行語大賞」は、1984年から自由国民社が実施していた『新語・流行語大賞』を受け、2004年から現在の『ユーキャン新語・流行語大賞』に改称されています。1年の間に話題になった出来事や発言、流行などの中からその年を代表することばを選ぶ賞で、2日はノミネートされた30のことばから、ことしのトップテンが発表されました。このドラマを見ていた人はいるでしょうか？校長先生は残念ながら見ていなかったので詳しい内容はわかりません。でも、不適切だなあと思うことは日常の中にたくさんあるように思います。もちろん自分自身も不適切な言動をしてしまっていることもあるかと思います。気を付けないといけません。最近、道路交通法が改定され、スマホを見ながらの自転車運転に罰則が与えられることになりました。しかし、その後もながら運転をよく見かけます。また、歩きスマホも毎日見かけます。何度もぶつかりそうになったこともあります。まさに「**不適切にもほどがあるなあ**」ですね。みんなは大丈夫ですか？加害者にも被害者にもならないように十分気を付けてください。

ことしの「新語・流行語大賞」のトップテンに選ばれたのは、50音順に、次のことばです。

- ▼「裏金問題」 ▼「界限」 ▼「初老ジャパン」 ▼「新紙幣」 ▼「50-50」
- ▼「ふてほど」(年間大賞) ▼「Bling-Bang-Bang-Born」 ▼「ホワイト案件」
- ▼「名言が残せなかった」 ▼「もうええでしょう」

それぞれどんな意味があるかわかりますか。校長先生は今年のはてっきり「50-50」フィフティーフィフティーだと思っていました。史上初の快挙を成し遂げた大谷選手の50本塁打、50盗塁。それ以外にもとにかく記録づくめのシーズンだったのではないのでしょうか。本当に偉大な選手だと思います。みんなはどんな言葉がこの1年で印象に残っているのでしょうか。

様々なことを振り返る時期になりましたが、みんなには、前に進むことも決して忘れずに最後まで走り抜けてほしいと願っています。